

第1回 河内長野市総合計画（第1部会） 議事要旨

日時:令和6年10月11日(土)

午前9時30分から

場所:802会議室

1. 開会

○事務局あいさつ

2. 議事

(1) これまでの意見収集の経緯について（追加報告）

→河内長野市ブランディング担当より、資料1に基づき河内長野市のブランディング事業について説明。

<質疑>

河村委員：河内長野市としては全体のイメージの底上げをしたいのか、それともターゲット層を絞っているのかどちらか。

市事務局：ターゲットは絞っていない。職員全体で、市の目指すところと、自分の仕事を頑張るための目標を作りたい。それぞれの職員が目標を持てばそれが市民に伝わる。まずは職員が目指すところを伝えたい。

前田委員：非常によく分析されていた。今後の方向性が見えつつあると思う。アウターブランディングについては、どのような話が出ているのか。また、市外に住んでいる人に対し、「なぜ河内長野に住まないのか」といった話は聞いたのか。

市事務局：今回のブランディング事業は、インナーブランディングを行っていく。良いまちであっても、それを伝える職員がいなければいけないため、職員が良いまちだと思えるところを目指して進めている。ブランディングとプロモーションは異なり、良さを浸透させる、浸透していくのが重要だと考えている。

玉崎委員：職員アンケートの回答率が42%となっている。まずは職員意識を上げなければいけないのではないか。

市事務局：ブランディング事業を開始する前のアンケートであり、指標の一つになると考えている。次にアンケートをとるときは100%になることを目指している。

山田委員：ブランド理念の6要素について、いいところを書いてあると思う。今後は超高齢化社会に突入し、健康寿命が長く、地域の中でのつながりが希薄になり孤立が増え、地域全体の連帯感がないという状況になっていくであろう。安全・つ

ながり・愛着を進めるというコンセプトは非常に良いと感じた。

副部会長　：感動した。自己肯定感が低いとエネルギーが出ない。まちの自己肯定感をいかにあげるか、という課題に一石を投じてくれた。市を肯定する材料が見えることが重要な一歩である。

（２）10年後の「ありたい市の姿」について（協議）

→事務局より、資料 2-1・2-2・2-3 に基づきワークショップ内容について説明。

＜各班の発表内容＞

1 班：子育て関連では、1 つは「学童にみんなが入れるまち」とまとめた。急に熱が出ても大丈夫など、安心して子育てができることが大事であると思う。子育て関連のもう 1 つは「子どもが河内長野らしい豊かな体験ができるまち」とまとめた。木こり体験ができることや川で遊べることは大阪では非常に貴重なことである。

シニアの方に関することでは、健康寿命が長いことを考慮しながら「シニアの方が生涯、健康で活躍できるまち」とした。高齢者が若者を支えるくらいになればよい。それに関連して、生涯学習のメニューは充実しているので、それをまちづくりに活かしてほしいという話もでた。

自治会について、なり手不足など問題はあるが最終的に目指したいのは「自治会に参加したい」と思えるまちである。

地域共生については、誰かが一方的に支える・支えられるのではなく、みんなでお互いに支えるというまちになってほしい。

また、買い物環境が少し不便なので、各駅前にコンビニがあるまち、というのも出た。交通については、これからのことを考えると免許を返納しても移動に困らないまちを目指せたらよいという話になった。

人の流れについては、「泊りたくなるまち、とどまりたくなるまち」、なんなら泊ってそのまま住んでもらえればよい。

最終的には笑顔があふれるまちになったらよいなという話になった。

2 班：河内長野市は自然の良さがポイントであるため、まずは自然を維持していくことが重要である。維持しながら滝畑などで市民が自然を活かした体験ができることを目指したい。

河内長野の豊かな自然に関連し、河内長野には作物を育てられる広い場所があるが、そういう場所を使い、学校給食の充実を行うことで、河内長野の一つの特徴として、イベントにつなげることも考えられるのではないかな。

また、いかに外から人を招いてお金を落としてもらうかについて、企業誘致、観光

でお金を落としてもらうにあたり、できれば河内長野の観光と宿泊がセットになることで、河内長野の来訪者を増やせばよい。

そういった取り組みにより、河内長野全体が住みたくて、豊かで健康で育っていくまちになるというのを大きなビジョンとして持つことが大事かと思った。

3. 事務連絡

→事務局より、事務連絡について説明

4. 閉会

(以上)